

《研究ノート》

## 千葉県所在および房総関係の懸仏

木村 修

千葉県立中央博物館

〒260-8682 千葉市中央区青葉町955-2

懸仏は、そのものが造立され礼拝の対象であった時代には御正体とよばれていた。今日のように、懸垂することのできる円形の鏡板の中心に立体的な仏像を付けたものを懸仏とよび、鏡の表面に神仏を線刻したものを鏡像というようになったのは、明治以後のことである。これらは本来、神そのものあるいは神の本地仏として礼拝されることにおいては区別がなく、おしなべて御正体と称されていたのである。

すなわち鏡像も懸仏も、神そのものとして礼拝するための対象物で、平安時代に本地垂迹思想のもとに成立した。鏡像は、御神体としての鏡にその神の本地とされる仏の姿を線刻で表出したり、朱墨で描いたものであり、懸仏はこの鏡像から発展して、鏡の表面に立体的な仏像を表現したものとする理解が一般的である<sup>1)</sup>。

鏡像の成立については、大陸との関係を視野に入れて検討すべきことが指摘されている<sup>2)</sup>。京都市嵯峨の清凉寺の国宝釈迦如来立像は、東大寺の僧奄然が中国宋の開元寺で寛和元年(985)に造像して請来したものと伝え、その胎内に宋時代の水月観音像鏡像が納入されていたこと、また朝鮮半島にも高麗時代の金銅鏡像が存在することなどからの指摘である。日本において鏡像が大陸からの影響のもとに成立したのか、あるいは鏡面に仏像を線刻するという文化的事象がそれぞれの地において独自に発生したのか、この問題は今後の重要な研究課題である。

しかしながら、日本において平安から江戸時代にかけて製作・礼拝された鏡像と懸仏が、神

仏習合の表現の一つとして成立し、神社や仏堂に奉献されてきたことは紛れもない。明治の廃仏毀釈を経て優品を含む多くが失われたといわれるが、幸いにして護り伝えられたり、あるいはひっそりと社殿の奥深くに祀り伝えられてきたものも少なくない。それらは、たとえ製作技法や美術的鑑賞度には乏しくとも、日本が歴史上に示した文化受容の有り様の一つとしての神仏習合の具体相を伝えるかけがえのない文化遺産であり、歴史資料である。

このような趣旨から、本稿では、千葉県内所在の、あるいは県外に所在する房総関係の懸仏に関する情報整理を試みた。いうまでもなく、未だ公にされていない懸仏もあろうし、管見の及ばなかったものもあるに相違ない。多くの御教示・御叱正と情報の御提供をいただき、懸仏研究さらには神仏習合研究の基礎とすることができれば幸いである。

なお、調査をお許しいただいた所蔵者の方々を始め、御教示いただいた先学諸氏・関係機関の方々に心より御礼を申し上げる次第です。

注

- (1) 近年の代表的論考としては、難波田徹氏「御正体の作行と伝来」(同氏著『中世考古美術と社会』〈1991年、思文閣出版〉)、山下立氏「概説懸仏の世界」(滋賀県立琵琶湖文化館特別展図録『懸仏の世界－神仏習合の歴史と造形－』〈1997年〉)などがある。
- (2) 難波田徹氏「伝世の鏡像・出土の鏡像－新しい方法論を求めての旅－」、林屋辰三郎氏「鏡像から懸仏へ－日本人の祈り－」(ともに難波田氏編著『鏡像と懸仏』1990年、至文堂)

以下の記載にあたっては、通し番号と名称をゴシック体で示し、次に①所蔵者 ②所在地 ③年代 ④材質 ⑤銘文の所在 ⑥尊容・荘嚴等 ⑦鏡板の径 ⑧出典および主な関係文献 ⑨指定文化財の区分 ⑩所在地に移動がある場合の原所在地ないし旧所在地、または伝承される原所在地 ⑪銘文および備考 の順とした。

名称については、新たな名称を付与することによる混乱を避けるため、特に支障のない限り、文化財としての指定名称や従来通用の名称を用いた。ただし、単に懸仏とのみ呼称されてきたものについては、新呼称を付したものもある。

①について、個人所蔵の場合、先行文献で所蔵者名が公表されている場合は氏名を表記した。佚亡の場合は所蔵者名のあとに佚亡と付した。③は、銘文に年月日の記載がある場合はそのまま採用した。③④⑤⑥⑦で不明の場合は空欄とした。⑪の銘文について、旧字体・異体字は常用漢字・新字体に統一し、行替はは/で示し、割書等は縦一行書きとした。また、⑧の出典・関係文献のうち、頻出するものについては、次のように略称とした。

- ・篠崎四郎氏著『房総金石文の研究』（1942年、のち1980年に同氏著『日本金石文の研究』に収録）→房金
- ・『千葉縣史料 金石文篇一』（1975年）→千金1
- ・『千葉縣史料 金石文篇二』（1978年）→千金2
- ・山下立氏「懸仏紀年銘集成（上）」『滋賀県立琵琶湖文化館 研究紀要』第13号（1996年）→集成（上）
- ・山下立氏「懸仏紀年銘集成（中）」『滋賀県立琵琶湖文化館 研究紀要』第14号（1997年）→集成（中）

## 1. 銅造胎藏界大日如来像懸仏

①泉水稠治氏旧蔵 佚亡 ②市原市藤井 ③1402（応永9）年6月1日 ④銅 ⑤鏡板表

裏面陰刻銘 ⑥ ⑦ ⑧大森金五郎氏「上総国府所在ノ研究」『史蹟名勝天然紀念物調査（千葉県）』第8輯（1931年）、『市原市史 中巻』（1986年）、小川信氏『中世都市「府中」の展開』（2001年）、千金1 ⑩もと郡本八幡宮蔵と伝える ⑪表面銘「守公神御正体／所者上総国府中国庁／国御目代日高彈正朝光沙弥道光」裏面銘「金資弘覚大勧進沙門／応永九年六月一日」（改行は千金1による）

## 2. 銅造金剛界大日如来像懸仏

①泉水稠治氏旧蔵 佚亡 ②市原市藤井 ③1459（長禄3）年 ④銅 ⑤鏡板陰刻銘 ⑥ ⑦ ⑧大森金五郎氏「上総国府所在ノ研究」『史蹟名勝天然紀念物調査（千葉県）』第8輯（1931年）、『市原市史 中巻』（1986年）、小川信氏『中世都市「府中」の展開』（2001年）、千金1 ⑩もと郡本八幡宮蔵と伝える ⑪銘「上総国市西郡市原庄／氏神正体／長禄三天（以下文字不明）」（改行は千金1による）

## 3. 鑄造三尊形本地仏懸仏

①古敷谷地区管理 ②市原市古敷谷 ③1404（応永11）年3月晦日 ④銅（一鑄）⑤鏡板表面陰刻銘 ⑥十一面観音坐像、拱手如来形坐像2軀、蓮座3、覆輪 ⑦20.1cm ⑧『市原市史（別巻）』（1979年）、『市原市史 中巻』（1986年）、千金1、集成（中）⑨市指定 ⑩古敷谷字峯の行屋堂に、出羽三山信仰の人々による礼拝の対象として大日如来像とともに安置されていた⑪銘「応永十一年甲申弥生晦日／大旦那左近太夫」。『市原市史（別巻）』は、もと近くの熊野神社に祀られていた可能性を指摘している。

## 4. 大日如来坐像（懸仏）

①長楽寺 ②市原市古敷谷 ③室町時代 ④銅 ⑤ ⑥大日如来坐像（像高6.7cm）⑦鏡板欠失 ⑧『市原市内仏像彫刻所在調査報告書—南部編—』（1993年）⑨鏡板を欠失しているが、

像容・技法等によりもと懸仏の主尊と推定される。

#### 5. 懸仏

①八幡神社 佚亡 ②市原市佐是 ③1579(天正7)年正月 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧『千葉県市原郡誌』(1916年) ⑨銘「天正七己卯正月／吉田外記寄進」。『千葉県市原郡誌』は「釣神鏡一面」と表記。

#### 6. 金剛界大日如来坐像懸仏

①苗鹿神社 ②市原市奉免 ③1438(永享10)年 ④鋳銅 ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥金剛界大日如来坐像, 蓮座, 天蓋, 吊鐙, 鐙座, 覆輪, 珠文 ⑦20.3cm ⑧『市原市史 中巻』(1986年) ⑨銘「永享十年七月十三日／寿珍比丘尼／奉施入貴船宮本地仏」

#### 7. 如来形坐像懸仏

①満蔵寺 ②市原市奉免 ③室町時代 ④鉄(一鋳) ⑤なし ⑥如来形坐像, 台座, 覆輪 ⑦8.8cm ⑧『市原市内仏像彫刻所在調査報告書-南部編-』(1993年)

#### 8. 独尊像懸仏

①万蔵寺 ②市原市奉免 ③室町時代 ④鉄 ⑤ ⑥尊名不詳 ⑦20cm ⑧『市原市史 中巻』(1986年)

#### 9. 千手観音坐像(懸仏)

①能満寺 ②市原市田淵旧日竹 ③室町時代 ④銅 ⑤ ⑥千手観音坐像(像高10.4cm) ⑦鏡板欠失 ⑧『市原市内仏像彫刻所在調査報告書-南部編-』(1993年) ⑨鏡板を欠失しているが, 像容・技法等によりもと懸仏の主尊と推定される。

#### 10. 十一面観音種子懸仏

①妙見神社 ②習志野市実柵本郷 ③室町時

代 ④銅(一鋳) ⑤なし ⑥梵字キャ, 蓮座線刻, 吊鐙 ⑦15.8cm ⑧『習志野市史 通史編』(1995年) ⑨ほかに同一神座上に銅製小円盤が2面所在する。

#### 11. 天正18年銘文船形八幡懸仏

①八幡神社 ②野田市船形 ③1590(天正18)年10月13日 ④青銅 ⑤鏡板表裏面陰刻銘 ⑥阿弥陀三尊坐像, 台座, 鐙座, 覆輪, 上部中央に懸穴, 下部中央に穿孔3穴 ⑦ ⑧野田市郷土博物館刊行 野田シリーズ19『野田市の指定文化財Ⅲ』(1990年) ⑨市指定 ⑩ ⑪表面銘「奉造立奉願照光院飯塚豊後守道連／下総国庄内下川辺莊船形郷宮向辺／天正十八年庚寅十月十三日／敬白」, 裏面銘「前嶋縫殿鑄之」。船形八幡神社の御神体で非公開。

#### 12. 三尊像懸仏

①八幡神社氏子中管理(頭屋持廻り) ②我孫子市中峠 ③室町時代(天文年間頃カ) ④金銅(一鋳) ⑤なし ⑥三尊(阿弥陀三尊カ)像, 光背, 天蓋, 台座, 華瓶, 波文, 圏線, 吊鐙, 獅嘴形鐙座, 覆輪, 珠文 ⑦46.0cm ⑧『我孫子市史資料 金石文篇Ⅲ 金造物他』(1983年), 『我孫子市史資料 古代・中世篇 金石文』(1987年), 『我孫子市史 民俗・文化財篇』(1990年) ⑨天文2年(1533), 柴原城主川村出羽守が祖先供養のため, 氏寺法岩院に寄進したと伝え, のちに中峠八幡神社の御霊代となる(『我孫子市史資料 金石文篇Ⅲ 金造物他』による)。 ⑩『我孫子市史 民俗・文化財篇』は, 下野国佐野の天命の作と推定。

#### 13. 観音像懸仏

①都・観音堂 ②我孫子市布佐 ③江戸時代カ ④銅(一鋳) ⑤鏡板裏面陽鑄銘 ⑥観音胸像, 覆輪, 裏面上部に釣手 ⑦31cm ⑧『我孫子市史資料 金石文篇Ⅲ 金造物他』(1983年) ⑨銘「滝沢造」

14. 独尊像懸仏

①神崎好信氏 ②成田市川栗 ③室町時代  
④銅（一鑄） ⑤なし ⑥独尊像 ⑦20cm ⑧  
『成田市史 中世・近世編』（1986年）

15. 懸仏

①観行院 ②成田市大竹 ③鎌倉時代 ④青  
銅 ⑤なし ⑥金剛界大日如来坐像，降三世明  
王立像，不動明王坐像，鍔座，華瓶一對（右部  
欠失） ⑦31cm ⑧『成田市史 中世・近世編』  
（1986年） ⑨市指定 ⑩八坂神社御正体と伝承

16. 十三仏像懸仏

①成田山靈光館 ②成田市成田山公園 ③南  
北朝時代 ④鏡板は桐材製，ほか樺材，金銅製  
⑤なし ⑥中尊薬師如来像，如来立像12軀 ⑦  
29cm ⑧『成田市史 中世・近世編』（1986年）

17. 独尊像懸仏

①保目神社 ②成田市寺台 ③室町時代 ④  
銅（一鑄） ⑤なし ⑥千手観音坐像カ ⑦17.5  
cm ⑧新出 ⑩一部欠損，断裂 ⑪かつては保  
目神社御正体として祭礼に際し神輿に奉安し渡  
御していた。

18. 独尊像懸仏

①秋谷良二氏 ②印旛郡白井町名内 ③1555  
（天文24）年11月15日 ④鑄銅 ⑤鏡板表面陰  
刻銘 ⑥十一面観音坐像カ，台座，圈線，覆輪，  
獅嚙形鍔座，吊鍔 ⑦21.1cm ⑧鈴木普二男氏  
『のざらし紀行 白井町の文化誌』（1979年），千  
金2 ⑩銘「□□□印庄平塚郷名折村住人／下  
総／旦那秋谷大良兵衛門／天文廿四年戊辰十二  
正（一カ）月十五日」（銘文の判読は実査による。  
干支等年紀に疑義があるが後考を待ちたい）。  
明治時代に火中した。

19. 懸仏

①個人 佚亡 ②印旛郡白井町谷田 ③1579

（天正7）年 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 邨岡良弼氏  
「下総金石年表略」『房総郷土研究資料』第8号  
（1935年，1890年成稿），千金2 ⑩銘「天正七  
年」

20. 銅造釈迦如来坐像（懸仏）

①観福寺 ②佐原市牧野 ③1282（弘安5）  
年8月1日 ④鑄銅 ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥釈  
迦如来坐像（像高35.5cm）取り付け，鍔座欠失，  
覆輪欠失，笠鉞欠失 ⑦60.7cm ⑧八代国治氏  
著「廢仏毀釈と香取神宮本地仏」『仏教史学』  
第2編第1号（1912年）のち『新編明治維新神  
仏分離史料』第3巻（1983年）に収録，塩田敏  
郎氏「香取神宮本地仏に就て」『考古学雑誌』  
第23巻第3号（1933年），奈良国立博物館監修  
『垂迹美術』（1964年），久野健氏編『関東彫刻  
の研究』（1964年），難波田徹氏『鏡像と懸仏』  
（1990年），難波田徹氏『中世考古美術と社会』  
（1991年），千金2，集成（上），武笠朗氏「千  
葉・観福寺の懸仏について」『美学美術史学』  
第15号（2000年） ⑨国指定重要文化財 ⑩香  
取神宮伝来 ⑪銘「奉送／香取太神宮御本地四  
体内／釈迦牟尼如来／右志者為天長地久当社／  
繁昌異国降伏心願成就／造立如件／弘安五年壬  
午八月一日／仏師沙弥蓮願／大□□（禰宜）実  
政敬白」

21. 銅造十一面観音坐像（懸仏）

①観福寺 ②佐原市牧野 ③1282（弘安5）  
年8月1日 ④鑄銅 ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥十  
一面観音坐像（像高42.0cm）取り付け，鍔座欠  
失，覆輪欠失，笠鉞欠失 ⑦60.8cm ⑧通し番  
号20に同じ ⑨国指定重要文化財 ⑩香取神宮  
伝来 ⑪銘「奉送／香取太神宮御本地四体内／  
十一面観世音菩薩／右志者為天長地久当社／繁  
昌異国降伏心願成就／造立如件／弘安五年壬午  
八月一日／仏師沙弥蓮願／□□□□敬白」

## 22. 銅造地藏菩薩坐像(懸仏)

①観福寺 ②佐原市牧野 ③1309(延慶2)年3月8日 ④鋳銅 ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥地藏菩薩坐像(像高34.5cm)取り付け、鍔座欠失、覆輪欠失、笠鉦欠失 ⑦62cm ⑧通し番号20に同じ ⑨国指定重要文化財 ⑩香取神宮伝来  
⑪銘「敬白 下総国香取大明神御宝前／一奉建立金銅地藏大音(ママ)薩一体／一奉読誦般若心経万巻并観音経千巻／右志者为亡父実政并海雲比丘尼所奉建立如件／延慶貳年大歳己酉三月八日□□□陀仏／檀那□□□□胤敬白／同大□□□□」

## 23. 銅造薬師如来坐像(懸仏)

①観福寺 ②佐原市牧野 ③鎌倉時代, 1309(延慶2)年ヵ ④鋳銅 ⑤ ⑥薬師如来坐像(像高37.8cm), 鏡板(後補) ⑦62cm ⑧千金2, 集成(上)を除くほか, 通し番号20に同じ ⑨国指定重要文化財 ⑩香取神宮伝来 ⑪薬師如来は香取神宮の主神経津主命の本地仏

## 24. 金銅扇形御正体

①香取神宮 ②佐原市香取 ③1441(嘉吉元)年10月13日 ④扇面は銅板鍍金, 木(桧)製裏板鉦留 ⑤裏板背面墨書銘 ⑥金銅製扇面の中央部に取り付けられていた截金製神号「香取大明神」の痕跡がある。扇の親骨に透かし彫り ⑦扇面最大幅43.5cm ⑧千金2, 集成(中) ⑨県指定, 「香取神宮古神宝類」のうち ⑩銘「嘉吉元年十月十三日／沙弥常瑞(花押)」, 常瑞は千葉胤直

## 25. (阿弥陀如来坐像)懸仏

①東漸寺 ②旭市イ ③江戸時代ヵ ④銅, 鍍金, 木製裏板鉦留 ⑤なし ⑥阿弥陀如来坐像, 蓮座, 頭光, 華瓶, 吊鍔, 鬼面形鍔座, 覆輪, 鏡板全面に雲形文 ⑦28cm ⑧なし ⑨市指定 ⑩ ⑪通し番号26と一具。金銅製鏡板の縁を後部に曲げ木製裏板の側面までをくるみ,

鏡板全体の厚さは1.8cmを計測。蓮座・頭光・華瓶・吊鍔・鍔座は金銅製鏡板に鉦留め。主尊は別鑄し, 背部から伸ばした柄で裏板を貫通し固定。裏板の背面の突出した柄の両側には焼印「東漸寺」(方形枠線内に縦1行)が押印されている。

## 26. (薬師如来坐像)懸仏

①東漸寺 ②旭市イ ③江戸時代ヵ ④銅, 鍍金, 木製裏板鉦留 ⑤なし ⑥薬師如来坐像, 蓮座, 頭光, 華瓶, 吊鍔, 鬼面形鍔座, 覆輪, 鏡板全面に雲形文 ⑦28cm ⑧なし ⑨市指定 ⑩ ⑪通し番号25と一具。以下, 25の⑩に同じ。但し, 左側の吊鍔・鍔座は欠失。

## 27. 妙見菩薩倚像懸仏

①個人 ②山武郡成東町成東 ③1299(正安元)年7月 ④銅(一鑄) ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥妙見菩薩倚像, 台座, 亀蛇, 吊鍔, 覆輪 ⑦40cm ⑧千葉市美術館平成11年度秋季特別展図録『房総の神と仏』(1999年), 山下立氏「霊巖寺型妙見菩薩像とその遺例」『日本宗教文化史研究』第6号(1999年), 山下立氏「妙見菩薩像の変容－千葉・個人蔵銅造妙見菩薩像懸仏の像容の検討を中心に－」『密教図像』第18号(1999年), 房金, 集成(上) ⑩銘「正安元年大歳己亥七月 日／藤原末友」。鏡板に火中による歪み, 一部欠損

## 28. 懸仏

①谷薫次郎氏 ②山武郡成東町成東 ③1299(正安元)年7月日 ④ ⑤ ⑥ ⑦22cm ⑧千金1 ⑩銘「正安元年大歳己亥七月□日」, 通し番号27との異同について検討の要あるか

## 29. 懸仏

①真行寺 佚亡 ②山武郡成東町真行寺 ③1358(延文3)年10月日 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧『真行寺縁起』, 千金1 ⑩銘「奉施入真行寺山

王御正体／延文三年戊戌十月 日 菩薩戒尼聖明敬白」

### 30. 懸仏

①五所神社 ②山武郡連沼村イ ③1294（永仁2）年8月22日 ④ ⑤ ⑥ ⑦20cm ⑧千金1，集成（上） ⑨銘「□□□西念／永仁二年甲午八月廿二日／大勸進□□」

### 31.（薬師如来坐像）懸仏

①鶴岡松樹氏 ②長生郡長柄町大津倉 ③室町時代 ④銅 ⑤なし ⑥薬師如来坐像，台座，懸穴 ⑦14cm ⑧『長柄町史 本篇』（1977年），『増訂 長柄町の文化財』（1984年） ⑨町指定

### 32. 菩薩形立像懸仏

①坂本神社 ②長生郡長南町坂本 ③1382（永徳2）年正月1日 ④銅 ⑤鏡板表面陰刻銘 ⑥菩薩形立像（十一面観音カ），蓮座，吊鐙，覆輪，圈線 ⑦13.3cm ⑧千金1，集成（上） ⑨銘「奉懸天満大自／在天神御請（ママ）体／永徳貳年甲子正月一日／法阿弥敬白」

### 33. 山王二十一社御正体

①日吉神社 ②長生郡睦沢町妙楽寺 ③室町時代 ④銅（一鑄） ⑤なし ⑥鏡板表面中央部に5文字「山王廿一社」，圈線，覆輪，吊鐙 ⑦16.8cm ⑧『睦沢の文化財』（1998年） ⑨町指定 ⑩ ⑪銘「山王廿一社」（⑧の文献はこの5文字を浮彫としている）

### 34. 青銅製懸仏

①青竜寺 ②夷隅郡大多喜町横山 ③江戸時代カ ④青銅 ⑤なし ⑥観音菩薩坐像（像高13cm），光背・台座（ともに木製，後補） ⑦鏡板なし ⑧『大多喜町の文化財』（1992年），館山市立博物館平成5年度特別展図録『里見氏の城と歴史』（1993年） ⑨町指定

### 35.（菩薩形坐像）懸仏

①熊野神社 ②夷隅郡大多喜町伊保田 ③室町時代 ④青銅 ⑤なし ⑥菩薩形坐像，台座 ⑦15cm ⑧『大多喜町の文化財』（1992年） ⑨町指定

### 36. 金銅不動明王懸仏

①青柳正男 ②夷隅郡大原町大原 ③室町時代 ④金銅 ⑤なし ⑥不動明王坐像，台座，覆輪，懸穴 ⑦28.5cm ⑧『大原町史 通史編』（1993年） ⑨町指定

### 37. 銅造菩薩坐像（懸仏）

①洲宮神社 ②館山市洲宮 ③室町時代 ④銅（一鑄） ⑤ ⑥菩薩形坐像・台座（総高14.5cm） ⑦鏡板欠失 ⑧『館山市の仏像－館山市内仏像彫刻悉皆調査報告書－』（1987年） ⑨ ⑩ ⑪頭部と台座の後部に鏡板への取付用角柄をもつ。鏡板を欠失しているが，像容・技法等によりもと懸仏の主尊と推定される。

### 38.（十一面観音坐像）懸仏

①岩井神社 ②安房郡富山町高崎 ③室町時代 ④鑄銅 ⑤なし ⑥十一面観音坐像，蓮座，華瓶，吊鐙，鐙座，覆輪，珠文 ⑦20.0cm ⑧『富山町史 通史編』（1993年） ⑨町指定（指定名称「懸け仏・獅子頭」として通し番号38から41まで一括）。鏡板と吊鐙は一鑄，他は別鑄取付。

### 39.（如来形坐像）懸仏

①岩井神社 ②安房郡富山町高崎 ③室町時代 ④銅（一鑄） ⑤なし ⑥如来形坐像，吊鐙，覆輪，圈線 ⑦13.3cm ⑧『富山町史 通史編』（1993年） ⑨町指定（指定名称「懸け仏・獅子頭」として通し番号38から41まで一括） ⑩主尊の左右に穿孔

40. (如来形坐像) 懸仏

①岩井神社 ②安房郡富山町高崎 ③室町時代 ④銅(一鑄) ⑤なし ⑥如来形坐像, 台座, 覆輪 ⑦17.3cm ⑧『富山町史 通史編』(1993年) ⑨町指定(指定名称「懸け仏・獅子頭」として通し番号38から41まで一括) ⑩鏡板下部欠失。鏡板右上部に穿孔, 左上部に破損のあとがある。火中の痕跡がみられる。

41. (薬師如来坐像) 懸仏

①岩井神社 ②安房郡富山町高崎 ③室町時代 ④銅(一鑄) ⑤なし ⑥薬師如来坐像, 蓮座, 覆輪 ⑦18.3cm ⑧『富山町史 通史編』(1993年) ⑨町指定(指定名称「懸け仏・獅子頭」として通し番号38から41まで一括) ⑩鏡板上端に欠損痕あり。

42. 銅造毘沙門天立像(懸仏)

①下立松原神社 ②白浜町滝口 ③鎌倉時代(13世紀半ば頃) ④銅(鍍金) ⑤ ⑥毘沙門天立像(像高20.2cm) ⑦鏡板欠失 ⑧『白浜町の仏像』(1999年) ⑨両手, 宝冠, 冠帯, 天衣遊離部など別鑄。髻と裙の地付き中央背面に鏡板への取付用柄をもつ。鏡板を欠失しているが, 像容・構造等によりもと懸仏の主尊と推定される。

43. 銅造毘沙門天坐像(懸仏)

①下立松原神社 ②白浜町滝口 ③南北朝時代 ④銅(鍍金) ⑤ ⑥毘沙門天坐像(像高8.8cm), 岩座(高さ2.6cm), 持物(別鑄) ⑦鏡板欠失 ⑧『白浜町の仏像』(1999年) ⑨頭部と岩座後部下端中央に鏡板への取付用柄をもつ。鏡板を欠失しているが, 像容・構造等によりもと懸仏の主尊と推定される。

44. 鑄銅釈迦如来像懸仏

①春日神社 ②君津市上 ③1418(応永25)年 ④銅(一鑄) ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥釈迦

如来坐像, 蓮座, 吊鐙, 覆輪, 珠文 ⑦30.6cm ⑧『君津市の文化財』(1986年), 『君津市史 金石文編』(1997年), 『君津市内仏像彫刻所在調査報告書』(1998年), 房金, 千金1, 集成(中) ⑨市指定 ⑩ ⑪銘「鎮東將軍/源朝臣前左馬頭以氏御代/大檀那藤原朝臣/周東左衛門景久/奉造立御正体/上総国周東郡/末利郷大宮/上村之社/春日大明神/神主雷電大夫守能/応永廿五戊戌/姑洗中旬初/軫宿日曜/甘露日」

45. 銅造毘沙門天尊像懸仏

①諏訪神社 ②君津市大井戸 ③1341(暦応4)年10月3日 ④鑄銅, 鍍金 ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥毘沙門天立像(邪鬼共鑄, 光背付き), 吉祥天立像(台座共), 善膩師童子立像(台座共), 華瓶, 花先形鐙座(切子頭鐙台付), 笠鉾, 覆輪 ⑦22.9cm ⑧『君津市史 金石文編』(1997年), 『君津市内仏像彫刻所在調査報告書』(1998年), 千金1, 集成(上) ⑨銘「暦応二年十月三日/大願主 源盛澄/月米氏女」

46. 毘沙門天立像懸仏

①諏訪神社 ②君津市大井戸 ③1344(康永3)年11月3日 ④鑄銅 ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥毘沙門天立像(邪鬼共鑄), 華瓶, 插花(一部残存), 獅嚙形鐙座(丸形鐙台付), 笠鉾, 覆輪 ⑦24.2cm ⑧『君津市史 金石文編』(1997年), 『君津市内仏像彫刻所在調査報告書』(1998年), 千金1, 集成(上) ⑨銘「敬白/康永三年十一月三日/上総国周東郡秋元郷住人/大槻宮祢宜大夫源盛澄/春米氏女」

47. 毘沙門天立像懸仏

①諏訪神社 ②君津市大井戸 ③南北朝時代 ④銅 ⑤鏡板裏面陰刻銘 ⑥毘沙門天立像(邪鬼共鑄), 華瓶, 鐙座, 笠鉾, 覆輪 ⑦19.3cm ⑧『君津市内仏像彫刻所在調査報告書』(1998年), 千金1 ⑨銘「檀那守吉/秋元大杯(カ)

大明神御体／大□道□／同月□氏」

#### 48. 懸仏

①諏訪神社 ②君津市大井戸 ③ ④ ⑤  
⑥ ⑦20cm ⑧『椛山林麿影写本』, 千金1  
⑨銘「檀那守吉／秋元大杯大明御体／大□道□  
同月米氏女」。法量は異なるが、通し番号47と  
の異同について検討の要あるか

#### 49. 銅造十一面観音像懸仏

①高照院森下寺 ②君津市鎌滝 ③室町時代  
④銅（一鑄）⑤なし ⑥十一面観音坐像, 蓮  
座, 宝珠, 狐像一對（胡粉・朱一部残存）, 覆  
輪, 吊鐙 ⑦23.2cm ⑧『千葉県君津郡誌』  
（1927年）, 山下立氏「稻荷信仰の懸仏－千葉県  
高照院の遺品をめぐって－」『朱』第39号（1996  
年）, 山下立氏「稻荷信仰の懸仏」『宗教民俗研  
究』第7号（1997年）, 『君津市内仏像彫刻所在  
調査報告書』（1998年）

#### 50. 銅造十一面観音像懸仏

①高照院森下寺 ②君津市鎌滝 ③室町時代  
④銅（一鑄）⑤なし ⑥十一面観音坐像, 蓮  
座, 懸穴, 笠鉾文付き, 圏線, 表面覆輪状面取  
⑦15.7cm ⑧山下立氏「稻荷信仰の懸仏－千葉  
県高照院の遺品をめぐって－」『朱』第39号  
（1996年）, 山下立氏「稻荷信仰の懸仏」『宗教  
民俗研究』第7号（1997年）, 『君津市内仏像彫  
刻所在調査報告書』（1998年）

#### 51. 十一面観音懸仏

①忠善寺 ②君津市三直 ③1636（寛永13）  
年 ④主尊は一木造, 彫眼, 彩色 ⑤光背裏面  
墨書銘 ⑥十一面観音坐像, 台座, 光背, 鏡板  
に鐙座, 圏線, 覆輪, 珠文 ⑦像高13.2cm ⑧  
『君津市内仏像彫刻所在調査報告書』（1998年）  
⑨銘「奉造立／鈴木甚右衛門／戸倉三郎右門／  
寛永十三季丙子」。台座下部がわずかに鏡板か  
らはみ出している。

#### 52. 千手観音懸仏

①建曆寺 ②君津市浜子 ③室町時代 ④銅  
⑤鏡板裏面墨書銘 ⑥千手観音坐像, 台座, 光  
背, 覆輪, 吊鐙, 鐙座 ⑦21.6cm ⑧『千葉県  
文化財調査報告書 昭和56～57年度』（1983年）,  
『君津市内仏像彫刻所在調査報告書』（1998年）  
⑨銘「熊野権現本地／熊野新宮／那智十二所権  
現也／右三所天神七代神／地神五代□／天山□  
／」

#### 53. 銅造十一面観音坐像（懸仏）

①安国寺 ②富津市亀田 ③1477（文明9）  
年11月吉日 ④銅（一鑄）⑤鏡板裏面陰刻銘  
⑥十一面観音坐像, 蓮座, 花枝, 宝珠, 吊鐙,  
覆輪 ⑦15.2cm ⑧『富津市の文化財』（1989  
年）, 館山市立博物館平成5年度特別展図録  
『里見氏の城と歴史』（1993年）, 千金1, 集成  
（中）⑨市指定 ⑩銘「（阿弥陀三尊種子）右  
志心信施主／妙意敬白／文明久稔霜月吉日」

#### 54. 懸仏

①八雲神社 佚亡 ②富津市岩坂 ③1461  
（長禄5）年9月19日 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧  
『椛山林麿影写本』, 千金1 ⑨銘「奉再興御靈  
権現／長禄五年／辛巳九月十九日／神主式部少  
輔義林／願主／成田新五左衛門重政」

#### 55. 懸仏

①普賢寺 佚亡 ②富津市小志駒 ③1431  
（永享3）年8月25日 ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ 千  
金1 ⑩小志駒諏訪神社の御正体で、明治維新  
後に別当職の普賢寺所蔵となる ⑪銘「大貫峯  
上師子馬／薬師堂／敬白法眼／永亨（ママ）三  
年庚（ママ）戊八月廿五日／旦那大夫五良／作  
者道観」。銘文は椛山林麿氏の調査メモによる

#### 56. 懸仏

①宇野信四郎 ②東京都杉並区梅里2丁目  
③1417（応永24）年4月9日 ④ ⑤ ⑥ ⑦



16cm ⑧篠崎四郎氏『房総金石文年表補遺』(1951年), 千金2, 集成(中) ⑩銘「敬白／上総国金田保之内／牛袋住人大工貞吉／応永廿二二年二月九日」

57. 懸仏

①塚本岩三郎 ②東京都中央区 ③1417(応永24)年5月日 ④銅 ⑤ ⑥ ⑦ ⑧房金, 千金2, 集成(中) ⑩銘「牛頭天王上総国刑部郡信吉／応永廿四年丁酉五月日」

58. 懸仏

①伊藤庄兵衛 ②京都市 ③1416(応永23)年2月日 ④銅(一鑄) ⑤鏡板表裏面陰刻銘 ⑥阿弥陀如来坐像, 蓮座, 覆輪, 懸穴 ⑦12.1cm ⑧伊藤庄兵衛氏編『家蔵懸仏と御正体』(1933年), 篠崎四郎氏『房総金石文年表補遺』(1951年), 千金2, 集成(中) ⑩表面銘「八幡御正体／谷田／応永廿三年／丙申二月日」, 裏面銘「同所右近二郎／大工／国安」。本尊下部および蓮座が鏡板からはみ出して, 鏡板が頭光のようになっている。

59. (不動明王坐像) 懸仏

①富士吉田市歴史民俗博物館 ②山梨県富士

吉田市上吉田 ③1482(文明14)年6月日 ④銅(一鑄) ⑤鏡板表面陰刻銘 ⑥不動明王坐像, 岩座, 火炎光背, 圈線, 連珠文, 覆輪, 吊鐙, 獅嚙形鐙座 ⑦31.5cm ⑧『富士吉田市歴史民俗博物館展示解説』(1995年), 『袖ヶ浦市史 資料編1付 中世金石文』(2000年), 集成(中) ⑨市指定 ⑩1985年に富士山八合目で発見 ⑪銘「八体内／総州管(菅)生庄木佐良津郷／大工／和泉守光吉／旦那／内匠助泉重／文明十四年壬寅六月日 本願源春」, 鏡板の一部(左部吊鐙・鐙座を含む)欠損

60. 虚空蔵菩薩坐像懸仏

①浅間大社 ②静岡県富士宮市宮町 ③1482(文明14)年6月日 ④銅(一鑄) ⑤鏡板表面陰刻銘 ⑥虚空蔵菩薩坐像, 蓮座, 天蓋, 獅嚙形鐙座, 圈線, 連珠文, 覆輪, 吊鐙 ⑦31.6cm ⑧遠藤秀男氏「富士山頂より出土の掛仏について」『あしなか』第194号(1995年), 沖本博氏「富士山出土の懸仏について」『あしなか』第200号(1987年), 川戸彰氏「木佐良津在銘の懸仏について」『千葉県立上総博物館研究紀要』第5号(1992年), 集成(中) ⑩銘「八体内／総州管(菅)生庄木佐良津郷／大工同旦那／和泉守光吉／文明十四年壬寅六月日 本願源春」

『千葉県立中央博物館研究報告第6巻第2号』の訂正

Table 1. (p.52) とTable 2. (p.53) の数値に誤りがありました。下記の表と入れ替えて下さい。

(正)

**Table 1.** Measurements of two femur specimens (mm)

	GL	GLC	Bp	SD	Bd	DC
多古橋川標本 Takobashigawa	424.9	391.8	152.3	41.7	108.6	56.9
NSMT-PV15412-55	—	454.1	—	44.6	115±	57.8

**Table 2.** Comparison of metrical character of three femur specimens

	多古橋川標本 Takobashigawa	NSMT-PV15412-55	CBMHKCA12
Bp/GL	0.358	—	0.253
Bd/GL	0.256	—	0.220
Bp/GLC	0.389	—	0.265
Bd/GLC	0.277	0.253	0.229